

**[確かな学力]  
を育む  
[わかる授業]  
の創意工夫例**

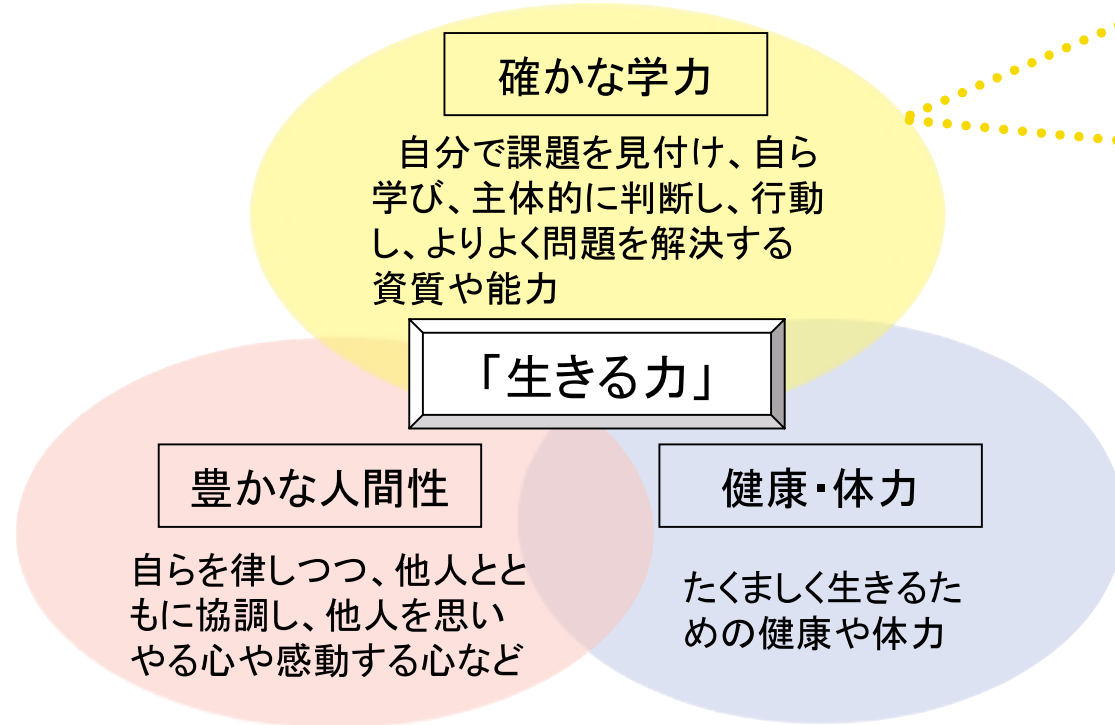
文部科学省初等中等教育局  
教育課程課教育課程企画室

---

東京都千代田区霞が関3-2-2  
TEL.03-5253-4111(代)  
ホームページ <http://www.mext.go.jp>  
E-mail [voice@mext.go.jp](mailto:voice@mext.go.jp)

# 子どもたちに確かな学力を

学校では、完全学校週5日制の下、子どもたちに基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付けさせ、自ら学び自ら考える力などの「生きる力」をはぐくみます。この「生きる力」を「知」の側面から見たものが、「確かな学力」です。



## 「確かな学力」



## 指導と評価の一体化

### 学習指導の充実

- 子ども一人一人に応じたきめ細かな指導
- 体験的、問題解決的な学習の充実

教育の状況をきめ細かく把握



### 評価の改善

- 教科の目標に照らしてその実現状況を見る評価（いわゆる絶対評価）
  - ・知識・技能はもとより、自ら学び考える力などの評価
- 子どものよさや可能性、進歩の状況などの評価



指導の改善

# 個に応じた指導の充実

新しい学習指導要領では教育内容を厳選し、時間的・精神的なゆとりを活用して、子ども一人一人の理解の状況や習熟の程度などに応じたきめ細かな指導を行うことが可能となっています。学校では、学習指導要領の内容の理解が十分ではない子どもには、繰り返し指導など補足的な学習によってつまづきを克服し、理解が十分な子どもには、その理解をより深める等の発展的な学習により、さらに力を伸ばしていきます。

東京都にある新宿区立余丁町小学校、5年生の理科の時間。前の時間までに「どんな情報を調べれば、天気の変化は予想できるか」について学びました。今日は、2つのグループに分かれて授業を行っています。

一つは、前の授業でテレビや新聞などの気象情報を活用して、自分なりの天気の変化を予想するやり方をつかんだグループ。今日は、インターネットで「気象衛星の雲画像」や「アメダス(降水量)」、「ライブカメラ」などの情報を集めたり、地域の天気に関する言い伝えを調べたりして、さらに多くの情報をもとにして天気の予想しようとしています。



もう一つは、自分なりの天気の予想のやり方が決まっていないグループ。屋上で雲の色や動き、量などをじっくりと観察したり、「気象衛星の動画の雲画像」を見たりして、雲の動きと天気の変化を関連付けて考えて、天気の変化を予想しようとしています。

子どもたちからは、「今、富士山に雲がかかっているかどうかが見られておもしろい。」「ひまわりの動画を見ると雲の動きがよく分かる。」「インターネットには、役に立つ天気の情報がたくさんある。」といった感想が聞かれました。

小学校5年生の理科では、1日の天気の様子を観測したり、映像などの情報を活用したりして、天気の変り方を調べ、天気の変化の仕方についての考えをもつようにします。

群馬県太田市の立九合小学校では、2年生から6年生の算数で、単元ごとに学年3クラスを「のびのびコース」(基礎・基本コース)3グループと「チャレンジコース」(発展コース)1グループに分け、習熟度別指導をしています。コース分けにあたっては、事前にテストを行い、その結果をもとに子どもが保護者や先生と相談し、コースを選択します。

## 1 のびのびコース

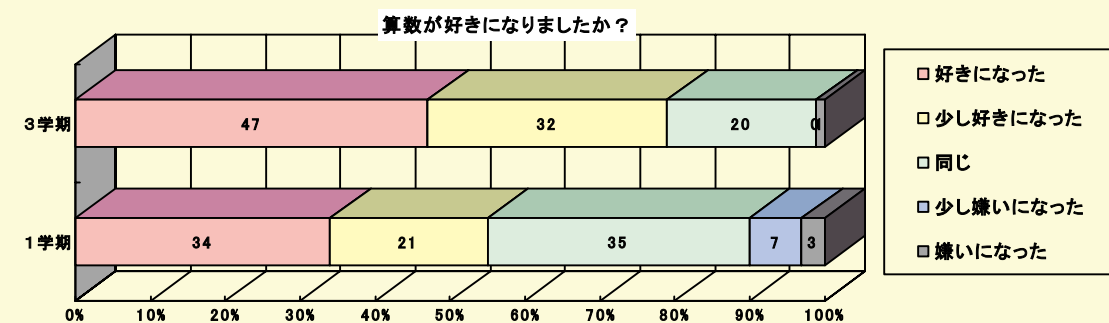
- ・全ての子どもたちに「わかる喜び」を味わわせることを目指し、少人数の学習クラスで、よりきめ細かに指導します。週1度はさらに先生が一人加わってチームティーチング(※)での指導を行います。

※ TT：複数の先生が協力して授業を行うこと

## 2 チャレンジコース

- ・学習の目標は「のびのびコース」と同じですが、難しい問題に挑戦することを通して、学ぶことの楽しさを味わわせます。

習熟度別指導により、算数への興味、関心、学習意欲が大きく高まりました。1年間、習熟度別指導を実施した後、子どもに対しアンケートをとったところ、1学期と3学期を比べて「算数が好きになった」「少し好きになった」と答えた子どもの割合が合わせて55%から79%に、「算数の授業が楽しくなった」「少し楽しくなった」と答えた子どもの割合が合わせて59%から81%にそれぞれ増えました。



また、「算数のテストの点が良くなった」「少し良くなった」と答えた子どもの割合も、合わせて66%から76%に増えています。

## Q&A

Q: 習熟度別指導は子どもたちに優越感や劣等感を与えませんか？

A: 学校では、習熟度別指導のグループ分けをするにあたり、子どもたちに優越感や劣等感を与えないよう、様々な工夫をしています。学習状況に応じて弾力的にグループを再編成する、教科ごとにグループを変える、あるいはグループを決める際に子どもたちの希望を踏まえる、などはその一例です。

# 個に応じた指導の充実

たたらちゅうおう

福岡市立多々良中央中学校では、全員に対し一斉に同じ内容の授業を行う「一斉授業」では生徒たちの理解に限界があると考えました。

そこで、複数のコースを設けることとし、どのコースにするかは、単元ごとに最初の時間にテストを行い、その結果などをもとに、生徒自身が決めています。

## 1. 「教科書がゴール」コース: 基礎・基本を重視するコース

一つ一つの学習内容を何度も繰り返し学ぶとともに、必要があれば小学校や前学年の内容まで立ち戻って学びます。教科書の内容の理解を目標としています。

赤い辺

青い辺

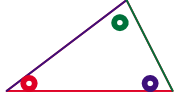
緑の辺

赤い角

青い角

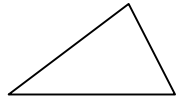
緑の角

の中で、3つだけを使って、下の三角形と合同な三角形を作ろう。



## 2. 「教科書からスタート」コース: 発展、応用まで進むコース

教科書の内容を中心に学習を進め、基礎的・基本的内容を習得した後は、発展的・応用的内容の学習に進みます。

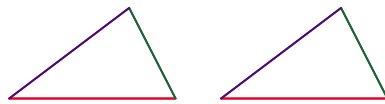


上の三角形と合同な三角形をコンパスや分度器・定規を使って作図し、どれだけの条件(辺の長さ・角の大きさ)がそろえば合同な三角形となるかまとめよう。

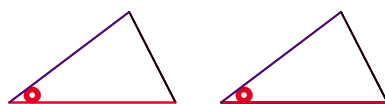
### 三角形の合同条件

2つの三角形は、次のどれかが成り立つとき合同である。

①3辺がそれぞれ等しい。



②2辺とその間の角がそれぞれ等しい。



③1辺とその両端の角がそれぞれ等しい。



具体的に理解する

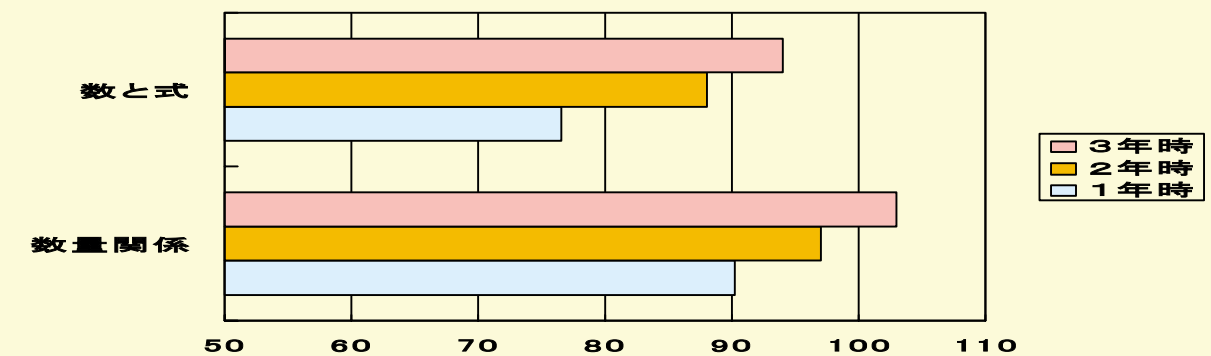
論理的に考える

中学校2年生の数学では、三角形の合同条件を理解し、それに基づいて三角形の性質を論理的に確かめることができますようにします。

その結果、2つの大きな成果が得られています。

### 1. 成績の向上

習熟度別指導を3年間にわたって実施した学年では、数学のテストの成績が向上しました。全国平均を100としたポイントが、1年次から3年次にかけて、「数と式」の問題で76.5から94.0に、「数量関係」の問題で90.2から103に大きく伸びました。



### 2. 学ぶ意欲の向上

アンケート調査の結果、数学が好きな生徒は67%にのびりました。また、習熟度別指導が自分にとってよいと思う生徒は97%と多く、その理由としては「自分にあったペースで勉強できる」、「少人数の方が質問しやすい」というものがあり、特に基礎・基本コースでは「間違っても恥ずかしくない」、「先生が一人一人をよく見てくれる」という理由があげられています。

### 数学は好きですか？



数学の授業をコースに分けて行っていることは、あなたにとってよいやり方と思いますか？



# 自ら学び自ら考える力を育てる授業の充実

変化の激しいこれからの社会を担う子どもが、新しい時代を主体的、創造的に生きていくためには、知識や技能はもとより、学ぶ意欲、思考力、判断力、表現力などまで含めた「確かな学力」を身に付ける必要があります。

そのために、学校の授業では、観察・実験、調査・研究、発表・討論などの体験的・問題解決的な学習を積極的に取り入れています。例えば、新しく始まった「総合的な学習の時間」では、教科等で身に付けた知識や技能等が生活の中で生かされ、総合的に働くようにすることを目指した指導が行われています。

大分県大分市立金池かないけ小学校の「総合的な学習の時間」では、子どもが算数で学んだことを実生活の中で生かしながら、学力をより確かなものにしていきます。

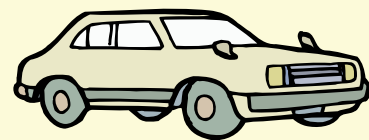
「みんなの町づくり(環境)」をテーマにした6年生の「総合的な学習の時間」の学習で、あるグループは、交通渋滞について調べてその対策を考えようとしていました。

子どもが調べた結果、町のある場所では、朝の5分間の交通量が150台で、そのうち120台が1人乗りであることがわかりました。子どもたちは、「交通量が多いのは一人乗りが多いからだ」とまとめようとしています。

そこで、「それだけでは説得力がない」と考えた先生は、どうしたら具体的になるのか子どもたちに考えさせました。

「8割(120台÷150台)が一人乗りだ」  
「それは、10台のうち8台が一人乗りということだ」  
などいろいろな見方が出てきます。

その中で、素朴な疑問が出されました。



「150台で何人の人が乗っているのだろう？」

「実際に乗っている人は180人と少しだ  
(120台×1人+(150台-120台)×2人以上)」

もし4人乗れば45台(180人÷4人=45台)と少しで済む

漠然としていたことがはっきりしてきて、考えることが本当に楽しくなります。

算数の得意な子どもは、

「45台は150台の3割(45台÷150台)に当たる」

「7割(10割-3割)も減らすことができる」

と計算し、発表します。

ここで生活体験の豊かな子どもから意見が出ます。

「そんなにうまくはいかないかもしれない。相乗りは面倒なことで、それでは車を使うよさがなくなる」

みんなも「なるほど」と思います。  
もう一度考えます。

「それでも自分たちの考えを示して相乗りをすすめることは大切だ。自分たちも車に頼らないようにしましょう」

算数の「割合」の学習では、割合の考え方を学び、『自動車は150台走っています。そのうち一人だけで乗っているのは120台です。一人で乗っている自動車は全体の何割でしょう。』というような文章題を解いたりします。

「総合的な学習の時間」では、そのようにして教科の学習で得た知識や技能を生かしながら、事実を具体的にとらえ、生活体験などと結びつけて、物事を深く広く考えます。話し合っ、自分なりの考えや意見を持ちます。それを自身の生活(生き方)と結びつけて生かそうとします。

このような授業の中で、子どもたちは教科等で学んだことの意味を実感をもって理解し、知識や技能が身に付き、学ぶ喜びを感じる中でどんどん学ぼうとする意欲を持ち、思考力、判断力、表現力などまで含めた「確かな学力」を身に付けていくことができるのです。

# 自ら学び自ら考える力を育てる授業の充実

北九州市立本城<sup>ほんじょう</sup>中学校では、3年生の数学の「関数」の時間に「実験」を取り入れています。たとえば、身近に関数( $y=ax^2$ )で表すことができる事象があることを、実験により確かめます。

ボールが落下するとき(写真上)※、模型の台車が走るとき(写真下)、1秒間に動く距離はどう変化するかを、生徒一人一人が予想し、実験し、実験の結果を表やグラフにまとめました。



同じ高さからテニスボールとピンポン玉を同時に落とす。落下のタイミングは？

実験の結果、生徒は「自分たちの身近にある『動き』を二次関数で表すことができる」ことを知りました。

$$\text{※落下した距離(m)} = 4.9 \times \text{時間(秒)}^2$$

一人一人が体験的、問題解決的な学習に取り組んだので、生徒全員が実験結果に興味を持ち、データ処理をしながら、いきいきと授業に取り組むことができました。

また、身近な『動き』と数学で習った知識が体験を通して結びつき、関数への興味・関心が高まりました。



斜面と平面の上を模型の台車を走らせる。その移動距離の違いは？

中学校3年生の数学では、具体的な事象の中から二つの数量を取り出し、それらの変化や対応を調べることを通して、関数 $y=ax^2$ について理解するとともに、関数関係を見だし表現し考察する能力を伸ばすことをねらいとしています。

山口県光市立浅江<sup>あさえ</sup>中学校では、3年生が「総合的な学習の時間」で、これからの光市に必要なものや、自分たちにもできる働きかけについて追求し、具体的な提言としてまとめ、「中学生議会」で発表しました。

## 3学年の学習テーマ：『21世紀の光市について考える』

子どもからお年寄りまで、すべての光市民がゆとりを持ち、心豊かに生活するためには、今の光市民に必要なものは何か。

思いつきの  
発想ばかり

生徒たちの当初の考え(例)  
ゲームセンターを造る・遊園地やテーマパークを造る・デパート建設

教師による指導

地域の人へのアンケート  
やインタビュー

生徒たちの提案

- ・島田川の優位性を生かした淡水魚専用水族館
- ・仕事と育児を両立している女性のための24時間専用託児所
- ・障害者のためのバリアフリーの環境整備 等

「バリアフリーの環境整備」調査班

生徒が設定したテーマ

「駅や郵便局などには、車椅子用専用スロープ・障害者用トイレ・点字ブロックなどが整備されている。だけど、それを利用している障害者の方を見かけたことがない。もっとそれらを充実させる必要があるのでは？」

情報収集、分析、調査

福祉作業所での職場体験

新しいテーマの発見

バリアフリーの環境を整えると同時に、健常者側の障害者に対する心のバリアを取り払うことが大切なのではないか。そのためにはどうしたらいいんだろう？

光市役所(福祉課)への  
インタビュー訪問

議会用提言文の作成

最終テーマ  
中学生として何ができるか。

「淡水魚専用  
水族館建設」  
調査班

「中学生議会」での発表

「24時間託児所  
建設」調査班



日ごろの授業ではさほど興味を示さない生徒も目を見張るほどの意欲を示し、熱心に取り組む様子が見られました。

また、議会終了後、生徒からは「緊張したが無事にやり遂げることができてよかった」、「今までで一番がんばれた」といった満足感、達成感、成就感に満ちた感想が聞かれています。

# 自ら学び自ら考える力を育てる授業の充実

教科等の学習と「総合的な学習の時間」の中で、子どもたちは新たな課題に創造的に取り組む力と学ぶ意欲を身に付けています。

また、社会人の方々にご協力いただいて、子どもたちが実社会での生きた知識や経験に触れる機会を増やすなど、各学校において、子どもたちが学ぶ楽しさを実感できる取り組みが進んでいます。

たてやま

千葉県館山市立第二中学校では、学校内外の様々な場面で社会人の方々に生徒の学習を支援していただく「社会人交流学习」を行っています。

## ①校外で「社会人から学ぶ」

「総合ユニット」  
(総合的な学習の時間)  
地域の方々を訪ね、地域の歴史について話をいただいたり、地域の事業所で職場体験をさせていただくなどしている。

☆学習テーマ例  
・「学区再発見小さな旅」(1年生)  
など、課題を発見したり、自分の生き方を考えたりしている。



成果

- ・地域の自然や文化、伝統の良さを再発見し、地域への愛着が深まった。
- ・自分自身を見つめ直すきっかけを得ることができた。
- ・自ら課題を見つけ、それを自力で解決する力を育むことができた。

## 子どもたちの変化

保護者による評価:「道具の使い方を職人の方から直接教えてもらえたと言って喜んでいました。技術的なもの以外にも感じるものがあつたようです。」

教師による評価:「子どもたちの調べ学習に専門的な立場から助言をしてくれるので、調査活動が深まり、まとめの発表活動がとても充実するようになった。」

## ②校内で「社会人から学ぶ」

「総合ユニット」や「選択教科」等の学習の場で、教師とのチームティーチング形式で講師を務めていただいている。

☆具体例

- とうざんおり
- ・唐棧織等の技術継承者から伝統工芸について学ぶ
  - ・民生委員から福祉について学ぶなど、伝統文化を学んだり、地域の福祉の現状を学ぶなど、幅広い視野から、課題に取り組んでいる。



成果

- ・興味や関心が高まって学習内容が豊かになり、新鮮な緊張感を持って、意欲的に取り組むことができた。それに伴い、活動や作品などの質も向上している。

## ③「社会人と共に学ぶ」

主に保護者の方々に選択履修講座を学習機会として開放し、生徒と机を並べて作業をしたり、一緒に運動したり学んでいただくなどしている。

☆講座例

- ・パソコンやちぎり絵など、地域に開かれた学校づくりを進めている。



成果

- ・学校と家庭・地域社会との連携が深まった。
- ・学び続けることのすばらしさを感じ、自分を見つめ直す機会となった。

## 子どもたちの変化

地域の方々による評価:「講座で接した後も校外の行事などで出会い、さらにいろいろと話ができた。学校以外の場でもかかわれるようになった。」

子どもの自己評価:「学校で調べた時はあまりよくわからなかったけど、おじさんに聞いたら簡単に詳しく教えてくれた。僕の家近くのことも調べて、新しいことを知りたいと思う。」

# 放課後の学習や体験活動の機 会の充実

放課後の子どもたちの主体的な学習を支援するため、始業前や放課後等の時間を活用し、学ぶ機会を充実させる取組が進んでいます。この時間では、子どもたちが授業で理解できなかったところの復習や主体的に調べる学習などを支援したり、学習の方法をアドバイスするなどの支援が行われています。

あさくら

高知県高知市立朝倉第二小学校では、月・火・木曜の放課後に30分程度、「わくわくタイム」を設けています。この時間には「その日の授業でわからなかったところを復習したり、得意な面を伸ばす自学自習の時間になって欲しい」、「質問しやすい雰囲気を作りたい、わからない点をそのままにしない雰囲気を作っていきたい」という先生の希望が込められています。

子どもたちの参加は自由で、自分の学習が終われば帰ります。また、学習の内容も子どもに任せられており、宿題に取り組む子どもや、自宅からドリルを持ってきて取り組む子どももいます。



「わくわくタイム」を実施している教室には、常に3人以上の先生がかかわってきめ細かく指導を行っていることもあり、子どもたちからは「先生が近くにいるのでわからないときに声をかけやすい」と好評です。

おかや

また、長野県岡谷市立岡谷小学校では、「学習相談室」を設け、放課後や休憩時間に、クラブ活動や児童会活動を担当していない先生たちが子どもたちからの学習に関する相談を受けています。

学習相談室では、子どもたちがパソコンソフトや自分に合ったミニプリントを使って学習したり、パターンブロックなどの教具を使って楽しみながら学習したりしています。日ごろの学習でわかりにくかったところを個別に見てもらったり、子どもたち同士で学びあう姿も見られ、時間を見つけては毎日のように通う子どもたちもいます。

また、放課後における、子どもたちの様々な体験の機会の充実を図るため、地域の人々と連携して体験活動を行う取組も進んでいます。

名古屋市では、市内の小学校103校で、月曜日から金曜日の放課後にトワイライトスクール(放課後学級)を開校しています。

トワイライトスクールは、教職経験を持つ指導者を中心に、地域のボランティアの協力によって運営されています。

「トワイライトスクール」

子どもたちが、小学校の施設などを利用し、異なる学年の子どもとの体験活動や遊び、世代の違う地域の人々との交流などを通して、「生きる力」をはぐくむことを目的としています。

地域行事への参加や集団での遊びのほか、お手玉などの伝承遊びやものづくりなどの「体験活動」、学校での学習内容の復習や読書などの「自主的学習」、科学工作や調べものなどの「学び合い活動」など、子どもたちが主体的に活動しています。



子どもたちからは、「いろいろな体験が出来て楽しい」、「たくさんの友達と遊んだりできる」という声が多く、子どもたちはいきいきと活動しています。



手作り百人一首大会の様子



# 評価の充実

2002年4月より、評価が変わりました。

	2002年4月より	2002年3月まで
観点別学習状況の評価 ○4つの観点を基本として、子どもの学力を分析的にABCの3段階で評価	※各教科の内容ごと、観点ごとに規準を定めて評価	目標に準拠した評価
○1年間の学習の状態を3段階または5段階で総括的に評価	目標に準拠した評価 ※観点別学習状況の評価を総括	集団に準拠した評価* ※目標に準拠した評価を加味しつつ、集団における位置付けを評価 <small>*正確には目標に準拠した評価を加味した相対評価</small>

これにより、子ども一人一人が身につけた力を的確に把握できるようになり、一人一人の理解の程度や学び方に応じて指導を改善していくことが可能になります。

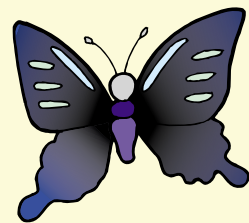
川崎市では、理科でめざす子どもの学びの姿を、的確に評価するため、学習活動計画の中に具体的な評価の視点を示しています。

単元:こん虫のふしぎ

この単元では、身近な昆虫の成長の過程や体のつくりを比較しながら調べ、生物を愛護する態度を育てるとともに、成長のきまりや体のつくり、昆虫と植物とのかかわりについて考えることを目標としています。

この単元では、以下のことを身に付けることをねらいとしています。

- ・身の回りの昆虫の育ちや体のつくりを比較して追究する能力。
- ・生命の不思議さや尊さにふれて、生き物を愛護する態度。



この単元における、評価の規準は次の通りです。

## 学習活動計画

### チョウを育てよう

- チョウについて知っていることを出し合う。
  - ・モンシロチョウはキャベツが好き
  - ・アオムシがチョウになる
- チョウを飼う計画を立てる
  - ・世話の仕方を考えよう。えさは何がいいかな
  - ・どんなすみかを作るといいのかな

## 評価規準・方法

《評価の観点》  
自然事象への  
関心・意欲・態度

チョウを育てる話し合いに進んで参加し、育てる計画を立てようとしている。  
★発言・行動

### チョウの卵や幼虫を探して育てよう

- アオムシや卵がいそうな場所を探す
  - ・キャベツ畑やみかんの木の生えているところに行ってみよう。
  - ・キャベツ畑の上をチョウが飛んでいるよ。
  - ・キャベツの葉のうらにちっちゃな卵を見つけたよ。
- 成長の様子を予想しながら飼育する。
  - ・こんな小さな卵がふくらんで幼虫になるのかな。
  - ・幼虫はたくさん足があるね。
  - ・動かなくなったよ。さなぎになるのかな。

《評価の観点》  
自然事象への  
関心・意欲・態度

チョウに関心を持ち、進んで探そうとしている。  
★発言・行動

《評価の観点》  
観察・実験の  
技能・表現

虫眼鏡を適切に使い、成長の様子を観察し、記録することができる。  
★発言・行動・観察カード

### 観察記録を見直そう

- 観察の視点を話し合い、自分の観察カードをふり返る。
  - ・口で葉っぱを食べている所がよくわかるね。
  - ・ようすを説明できるように文をくわしく書こう。
  - ・自分の書いた観察記録を見直そう。これからは本物と同じような色をぬろう。

《評価の観点》  
科学的な思考

観察や記録の視点について考えることができる。  
★発言・行動・観察カード

### チョウの図鑑を作ろう

- 観察記録をまとめる
  - ・チョウの一生をまとめよう
  - ・成虫の体のつくりもかこう。羽の数は4枚、目は2つだね。
- まとめた図鑑を交換し合ってみよう
  - ・チョウは卵→幼虫→さなぎ→成虫という順序で成長するんだね。

《評価の観点》  
自然事象についての  
知識・理解

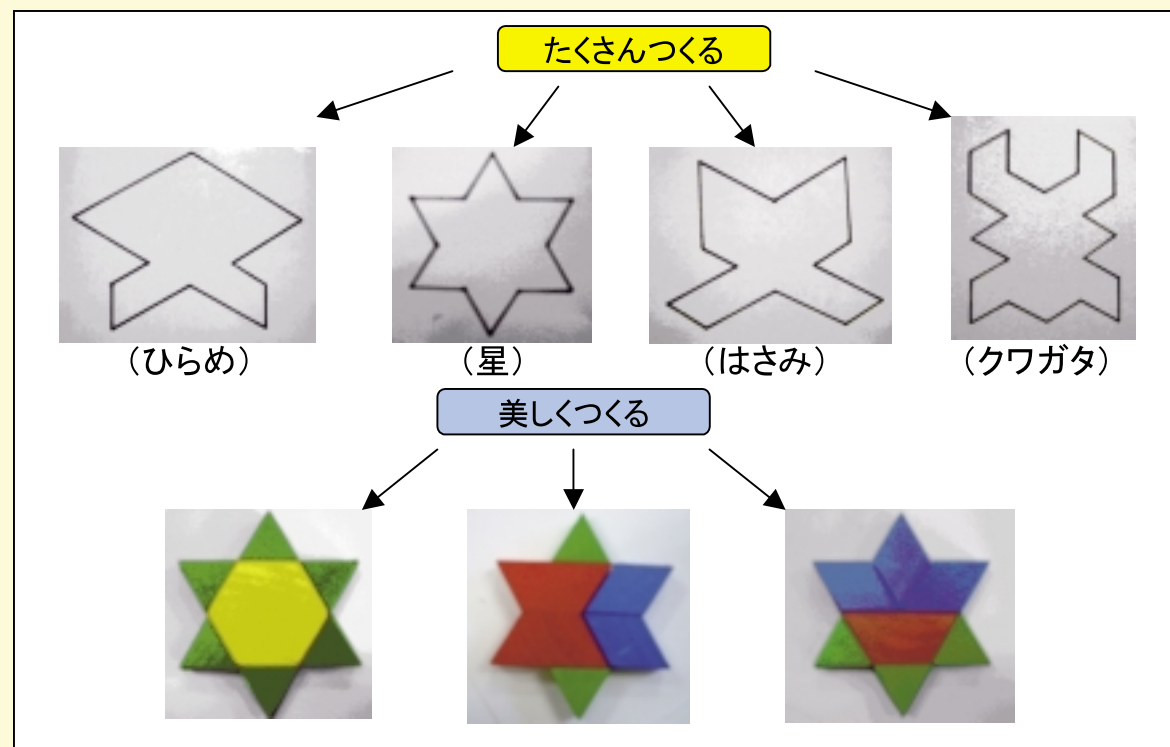
チョウやカイコの育ち方には、一定の順序があることがわかる。  
★まとめた作品

# 評価の充実

鹿児島県鹿児島市立田上小学校では、評価を個に応じた指導の改善へとつなげる取組をすすめています。

1年生の算数、「かたち」の授業では、影絵で示された形を子ども一人一人がパターンブロックで再現しました。

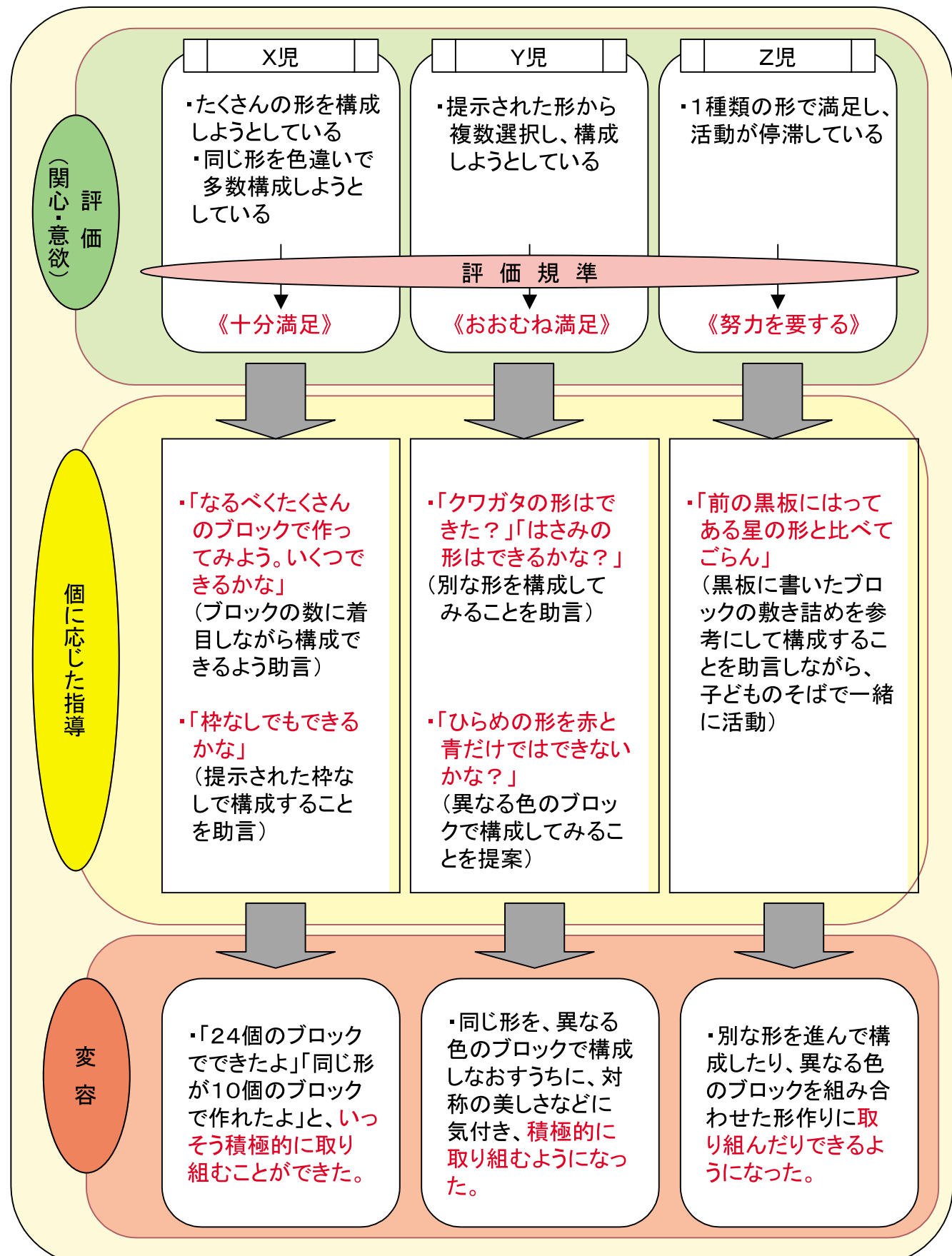
子どもたちは、「たくさんつくる」、「美しくつくる」など、自分でどのような形作りに挑戦するかを決め、課題に取り組みました。



## 「かたち」の授業での評価の規準

- 具体的な操作を通して、身の回りのものの形について、その構成や大きさなどに興味をもって進んで調べようとする。
- 基本的な平面図形概念をとらえ、観点を持って図形の特徴を見つけたり、見通しを持って図形を構成しようと考えたりする。
- 決められた図形を使っていろいろな形を作ったり、図形の構成要素に気付いて基本的な図形を構成したりすることができる。
- 平面図形は頂点や辺の数、辺の長さなどによって決まることが理解できる。

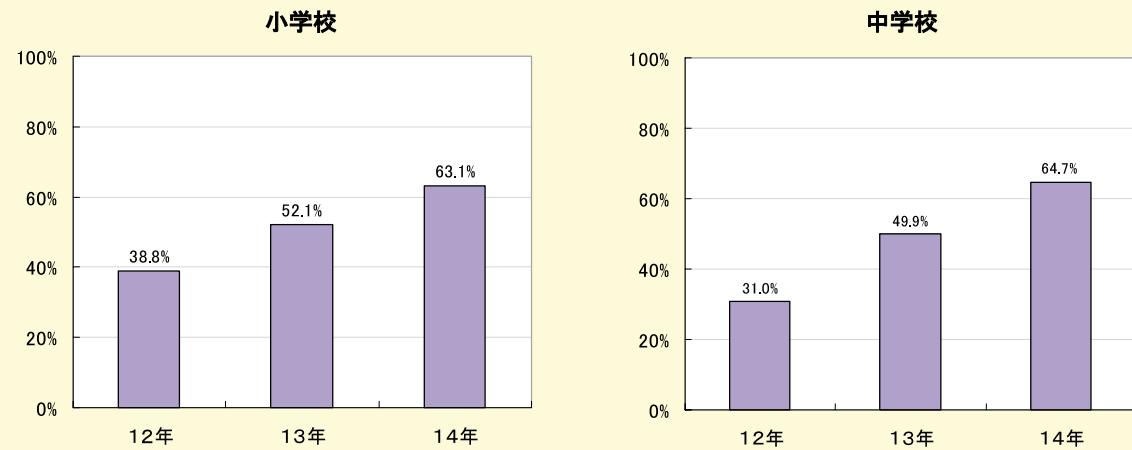
小学校1年生では、身近な立体についての観察や構成などの活動を通して、図形についての理解の基礎となる経験を豊かにします。



# 習熟の程度に応じた指導等の実施状況

## 1. 習熟度別指導の実施状況

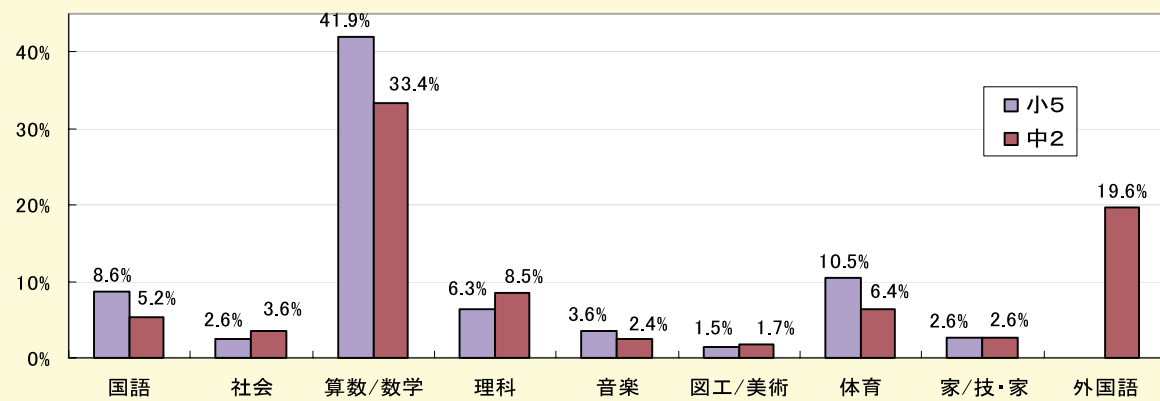
### (1) 実施率の推移



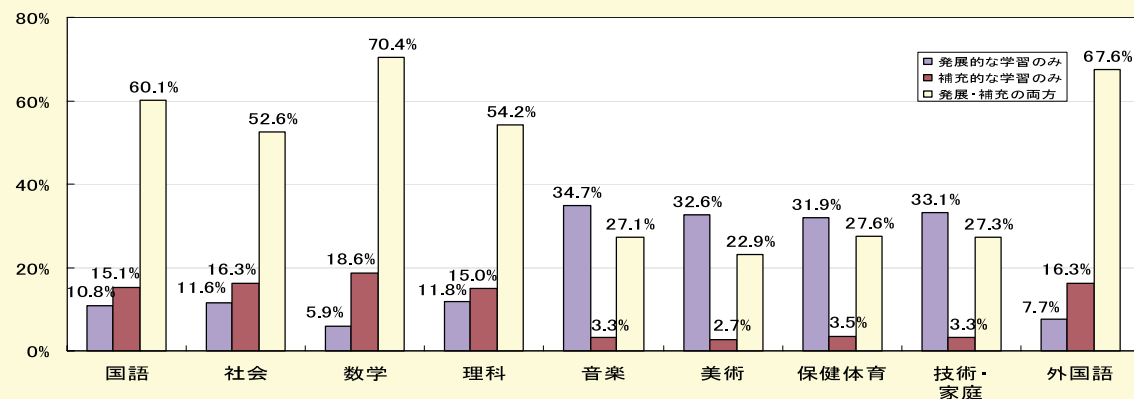
※ 必修教科で習熟度別指導を実施している学校の割合。

※ 実施率は(実施校数) / (全校数)。以下同様。

### (2) 教科別の実施状況(小学校5年、中学校2年)

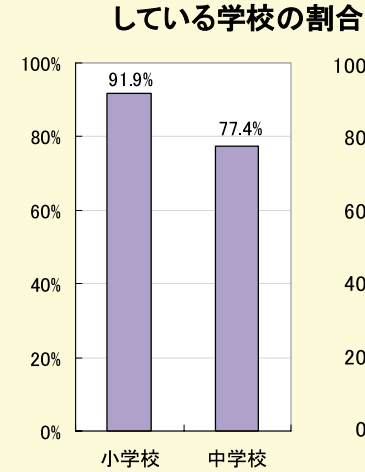


## 2. 選択教科における発展的・補足的な学習の実施状況(中学校3年)

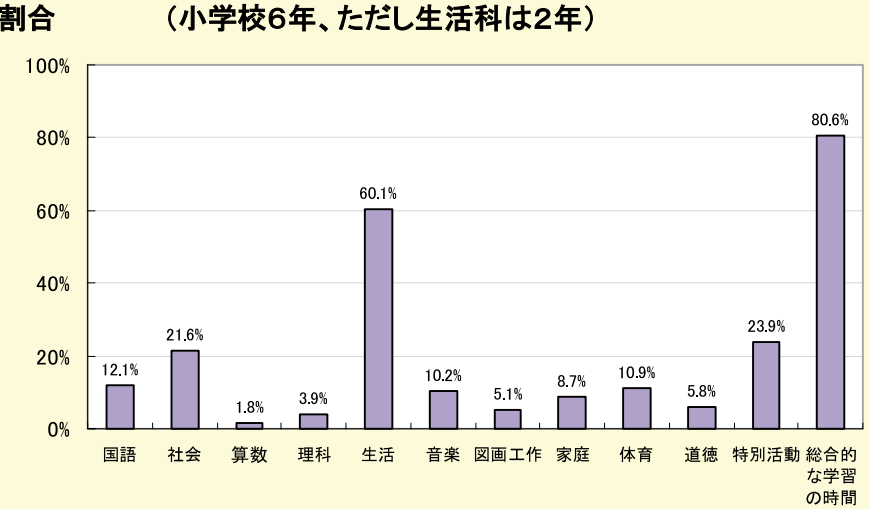


## 3. 学校における外部人材の活用状況

### (1) 外部人材を活用している学校の割合

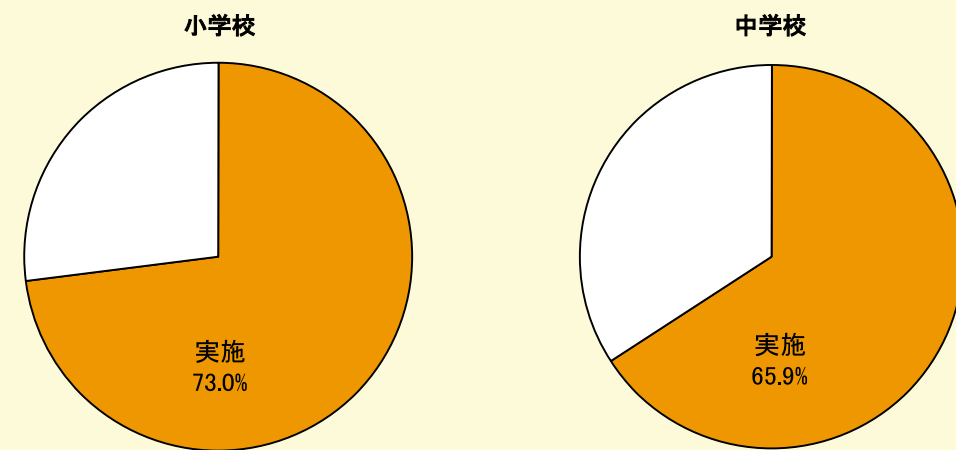


### (2) 教科別の活用状況(小学校6年、ただし生活科は2年)



※ 特別非常勤講師による授業、保護者や地域の人々のボランティアとしての協力も含む。

## 4. 始業前等の学習の実施状況



※ 始業前等の学習とは、教科等の授業の時間外で、教員の指導の下、特定の時間を設定して計画的に学習を行うことをいう。例としては朝の読書、漢字や計算の学習、教科等の授業の後に各教科等の補足的な学習など。(部活動を除く)

文部科学省「平成14年度公立小・中学校における教育課程の編成状況等の調査」(平成14年6月実施)より

# 確かな学力向上のための2002アピール「学びのすすめ」 (2002年1月17日 文部科学省)

本年4月から、全国の小・中学校で、新しい学習指導要領が全面実施されます。

新しい学習指導要領は、基礎・基本を確実に身に付け、それを基に、自分で課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する能力や、豊かな人間性、健康と体力などの「生きる力」を育成することを基本的なねらいとしています。

文部科学省としては、「心の教育」の充実と「確かな学力」の向上とが教育改革の特に重要なポイントであり、とりわけ、今の学校教育における大きな課題であると考えております。各学校及び教育委員会においては、これまで、新しい学習指導要領の全面実施に向けて精力的に準備を進めていただいているところであり、文部科学省としても、各学校や教育委員会の取組を支援する観点から、各種の施策を講じてまいりました。

一方で、授業時数や教育内容の削減によって児童生徒の学力が低下するのではないかという点について社会の各方面から寄せられている懸念に対しては、新しい学習指導要領のねらいとその実現のための施策とを今一度明確に示すとともに、そのねらいが確実に実現されるよう、さらに努力する必要があると考えます。

新しい世紀を迎え、これからの日本と世界は様々な面でこれまで以上に激しい変化に直面することになると予想されます。そのような中で、これからの社会を担う児童生徒が主体的、創造的に生きていくため、一人一人の児童生徒に「確かな学力」を身に付けることが重要となると考えます。

こうした観点から、新しい学習指導要領では、教育内容の厳選を図った上で、繰り返し指導や体験的・問題解決的な学習などのきめ細かな教育活動を展開することによって、そのねらいを実現しようとしているところです。中・高等学校においては、選択学習の幅を拡大し、一人一人の個性や能力、進路希望等に応じた学習が大幅にできるようにしました。さらに、自ら学び考える力、学び方やものの考え方、問題の解決や探究に主体的・創造的に取り組む態度などを育成することをねらいとして、総合的な学習の時間を新設したところです。

諸外国に目を向けると、アメリカ、イギリス、フランスをはじめとする欧米諸国やアジアの国々などにおいても、教育こそが一国の未来にとっての最重要課題であるとして、国を挙げて児童生徒の学力の向上等に向けた教育改革が推進されているところです。

また、昨年12月に公表された、経済協力開発機構(OECD)の「生徒の学習到達度調査(PISA)」の結果によると、我が国の児童生徒の学力は、単なる知識の量だけでなくそれを活かして実生活上での課題を解決する能力についても国際的に見て上位に位置していることが明らかになりました。その一方で、我が国の生徒の「宿題や自分の勉強をする時間」は参加国中最低であること、最も高いレベルの読解力を有する我が国の生徒の割合はOECD平均と同程度にとどまっていることなどの結果も出ています。

これらは、これまでの我が国の初等中等教育において、知識や技能だけでなく、思考力、判断力などまで含めた学力の育成に向けて取り組んできたことの成果の現れであるとともに、学びへの意欲や学ぶ習慣を十分身に付ける、あるいは、一人一人の個性や能力を最大限に伸ばしていくといった課題を示すものであると考えます。このような課題については真摯に受け止め、改善に向けた努力を惜しんではなりません。

以上を踏まえ、新しい学習指導要領の全面実施を目前に控えた今、文部科学省としては、新しい学習指導要領のねらいとする「確かな学力」の向上のために、指導に当たった重点等を明らかにした5つの方策を次のとおりお示しすることとしました。

各学校においては、この趣旨をご理解いただき、各学校段階の特性や学校・地域の実態を踏まえ、新しい学習指導要領のねらいとする「確かな学力」の向上に向けて、創意工夫を活かした取組を着実に進めていただきたいと思います。

また、各教育委員会においては、このための各種の支援策を講ずるとともに、各学校に対する適切な指導・助言を行っていただきますようお願いいたします。

- 1 きめ細かな指導で、基礎・基本や自ら学び自ら考える力を身に付ける  
少人数授業・習熟度別指導など、個に応じたきめ細かな指導の実施を推進し、基礎・基本の確実な定着や自ら学び自ら考える力の育成を図る
- 2 発展的な学習で、一人一人の個性等に応じて子どもの力をより伸ばす  
学習指導要領は最低基準であり、理解の進んでいる子どもは、発展的な学習で力をより伸ばす
- 3 学ぶことの楽しさを体験させ、学習意欲を高める  
総合的な学習の時間などを通じ、子どもたちが学ぶ楽しさを実感できる学校づくりを進め、将来、子どもたちが新たな課題に創造的に取り組む力と意欲を身に付ける
- 4 学びの機会を充実し、学ぶ習慣を身に付ける  
放課後の時間などを活用した補足的な学習や朝の読書などを推奨・支援するとともに、適切な宿題や課題など家庭における学習の充実を図ることにより、子どもたちが学ぶ習慣を身に付ける
- 5 確かな学力の向上のための特色ある学校づくりを推進する  
学力向上フロンティア事業などにより、確かな学力の向上のための特色ある学校づくりを推進し、その成果を適切に評価する